

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成23年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/3018
Right	

教 養 系

1. 英語研究室
2. 独語研究室
3. 数学研究室
4. 物理学研究室
5. 化学研究室
6. 生物学研究室
7. 体育学研究室
8. 法人類学研究室

1. 英語研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

准教授	森田 雅義	瞬間英作文を活用した英語指導法 効果的な発音指導の在り方
	柴家 嘉明	歯科医学英語教授法

2. 成果の概要

1) 瞬間英作文を通じた英語指導法

昨年度に引続き、日本語を聞いて(見て)即座に英語にする「瞬間英作文」の手法を授業に取り入れてみた。授業評価や学生の聞き取り調査によれば、少しずつ英語が口をついて出てくるようになったとの感想が多かった。新年度も実施する方向で検討し、授業の中心的な活動としても考えていきたい。

2) 効果的な発音指導の在り方

毎回の授業の中に継続的に取り入れ、且つ定期試験の中にも出題した。少しずつであるが、発音記号を手がかりに、単語の発音に慣れてきたように感じる。引き続き実践していきたいと思う。

3) 歯科医学英語教授法

歯科大学(歯学部)において、歯科医学生が歯科医学英語を学習する以前に、その基礎となる一般英語を習得する必要性が認められることから、共同研究者と共に、「歯科医学英語教育への導入としての一般英語教育」の方法を、その理念とシラバスという二つの観点から検討、研究した。その結果、一般英語教育は、「英語の音」と「基礎的最重要単語約1,700語」の習得という、二本の柱をもって実践されるべきであるという結論を得た。同時に後者の基本単語群は、統計的調査により、一般英語のみならず、歯科医学英語論文という学問領域においてさえ、きわめて重要な役割を担っていることが判明した。

歯科医学英語教育への導入としての一般英語教育 第219回東京歯科大学学会(例会)示説発表 2011.6.4
歯科医学英語教育への導入としての一般英語教育 歯科学報 112(1): 54-60, 2012.

3. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
森田 雅義	2011.9.17	第3回360度評価のための研修ワークショップ	参加者	千葉市
森田 雅義	2011.12.3	文科省 大学教育・学生支援推進授業【テーマA】大学教育推進プログラム 第2回公開フォーラム『個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成』について	参加者	千葉市
柴家 嘉明	2011.8.28	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)(一般)(平成23-25年度) 日本の歯科大学における歯科英語教育コアカリキュラム開発に関するディスカッションフォーラム	発表者	岡山市
柴家 嘉明	2011.10.22	第4回360度フィードバックのための研修ワークショップ	参加者	東京都千代田区

原著論文 1

23401001 原著論文

柴家嘉明1)、三浦直2)

歯科医学英語教育への導入としての一般英語教育：理念とシラバス
歯科学報, 112(1), 54-60, 2012.

1) 東京歯科大学英語学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント学研究部門
医中誌 ID : 2012188952

学会発表・示説 1

23401002 学会発表・示説

柴家嘉明

歯科医学英語教育への導入としての一般英語教育Iー理念とシラバスー
歯科学報, 111(2), 217, 2011.

第291回東京歯科大学学会（例会） 千葉市

東京歯科大学英語学

解説 1

23402001 解説

清水真哉

世代間倫理をめぐる考察

東京歯科大学教養系研究紀要, 27, 1-8, 2012.

東京歯科大学ドイツ語学

3. 数学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

准教授 高際 睦 歯科医学データの統計解析(A01-1200-6)

2. 成果の概要

統計学、データ科学の専門家から見て、歯科医学研究における統計解析やデータハンドリングには誤った固定観念に基づいた手法や手続きの誤用が散見されてきた。そこで、今までの経験から、よく使われるものでありながら、多くの人が誤解しているデータの取り扱い、解析手法を取りあげ、それらの概念を説明するとともに、正しい手法の選択、使い方等の解説を行い、それをまとめた。

歯科学報 111(6): 554-560, 2011.

3. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
高際 睦	2011. 7.22	平成23年度教育ワークショップ（報告会） 初年次教育のあり方	発表者	千葉市

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
高際 睦	2012. 2.26	平成23年東京歯科大学 第4学年OSCE	評価シート回収・入力係	千葉市

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
高際 睦	前期	基礎数学	東京医療保健大学	東京都世田谷区
高際 睦	春学期	入門統計学	早稲田大学国際教養学部	東京都新宿区
高際 睦	秋学期	入門統計学	早稲田大学国際教養学部	東京都新宿区

解説 2

23403001 解説

高際睦

データを見直そう：より良い統計解析を行うために
歯科学報, 111(6), 554-560, 2011.

東京歯科大学数学

医中誌 ID : 2012158022

23403002 解説

高際睦

数学の基礎理解度テストの結果から

東京歯科大学教養系研究紀要, 27, 31-39, 2012.

東京歯科大学数学

4. 物理学研究室

プロフィール

1. 教員と主研究テーマ

教 授 望月 隆二 歯科医学準備教育としての物理教育(A05-1240-1)
准教授 池上 健司 Black Holeに落ち込む粒子からの輻射(A97-1240-2)

2. 成果の概要

1) 歯科医学準備教育としての物理教育 (A05-1240-1)

自然科学演習、基礎理解度テストについてアンケートや定期試験の成績などを基に評価し、平成 23 年度教育ワークショップ「初年次教育のあり方」において、議論を進める上での資料とした。

2) Black Holeに落ち込む粒子からの輻射 (A97-1240-2)

強い重力下での物理を理解するために、量子論的真空を定義する判断基準が必要となる。その定義は異なったいくつかのものが、現在まで重力場中での真空の定義を選ぶ判断基準は分かっていないため、様々な状況を計算する手法が真空の定義の仕方によりいくつか現れている。そのどれを採用するべきか研究している

3. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
望月 隆二	2011. 7.22	平成23年度教育ワークショップ (報告会) 初年次教育のあり方	発表者	千葉市
池上 健司	2011. 7.22	平成23年度教育ワークショップ (報告会) 初年次教育のあり方	発表者	千葉市

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
望月 隆二	2012. 2.26	平成23年東京歯科大学 第4学年OSCE	評価シート回収・入力係	千葉市

原著論文 1

23404001 原著論文

望月隆二、池上健司

S-ブレイン特異解における次元縮小とT双対性

東京歯科大学教養系研究紀要, 27, 9-30, 2012.

東京歯科大学物理学

5. 化学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授 加藤 哲男 歯周炎およびインプラント周囲炎のリスク因子としての免疫応答の解析(A09-1310-1)

2. 成果の概要

1) 唾液高プロリンタンパク質由来ペプチドの内毒素に対する影響 (A09-1310-1)

高プロリン塩基性タンパク質 P-B あるいはその一部のアミノ酸残基からなる合成ペプチドを用いて、内毒素のヒト培養細胞からの炎症性サイトカイン誘導能に対する抑制効果について検討した。高プロリン塩基性タンパク質 P-B は、歯周病原細菌の病原因子である LPS に対して抑制効果を示した。また 10 数残基の短鎖ペプチドにも同様の効果を示すものがあり、内毒素活性抑制物質としての有用性が示唆された。

J Oral Biosci 53(Suppl): 200, 2011.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
加藤 哲男	唾液タンパク質の口腔保健への応用	新潟工科大学	柏崎市	斎藤 英一
加藤 哲男	天然抗菌物質の歯周病原細菌感染に対する抑制効果	新潟大学・工学部	新潟市	谷口 正之

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
加藤 哲男	唾液タンパク質のバイオフィルム形成抑制と病原因子に対する阻害効果	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・hrc8
加藤 哲男	ヒト細胞の炎症性サイトカイン産生抑制作用	平成23年度「農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発」委託事業

5. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
加藤 哲男	2011.10.22	第4回360度フィードバックのための研修ワークショップ	参加者	東京都千代田区

原著論文 1

23112054 原著論文

Haku K1)2), Muramatsu T1)2)3), Hara A1)2), Kikuchi A2), Hashimoto S2)3)4), Inoue T1)3), Shimono M2).
Epithelial cell rests of Malassez modulate cell proliferation, differentiation and apoptosis via gap junctional
communication under mechanical stretching in vitro.

Bull Tokyo Dent Coll, 52(4), 173-182, 2011.

1) 東京歯科大学臨床検査病理学、2) 東京歯科大学病理学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、4) 東京歯科大学化学
PubMed ID : 22293587

学会発表・口演 3

23006006 学会発表・口演

君塚隆太1)3)、加藤哲男2)3)、国分栄仁1)3)、石原和幸1)3)

Effects of treponema denticola infection on polarized epithelial cells.

日本細菌学雑誌, 67(1), 103, 2012.

第85回日本細菌学会総会 長崎市

1) 東京歯科大学微生物学、2) 東京歯科大学化学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター

23405001 学会発表・口演

加藤哲男1)、君塚隆太2)、石原和幸2)

歯周病原細菌におよぼす高プロリン塩基性タンパク質P-Bの影響

歯科学報, 111(2), 235-235, 2011.

第291回東京歯科大学学会例会 千葉市

1) 東京歯科大学化学、2) 東京歯科大学微生物学

医中誌 ID : 2011236703

23405002 学会発表・口演

斎藤英一1)、谷口正之2)、伊勢村知子3)、石原和幸4)、加藤哲男4)5)

ヒト唾液高プロリントタンパク質の再来

J Oral Biosci, 53(Suppl), 103, 2011.

第53回歯科基礎医学会総会 岐阜市

1) 新潟工科大学工学部、2) 新潟工科大学工学部、3) 日本歯科大学新潟短期大学部、4) 東京歯科大学微生物学、5) 東京歯科大学化学

医中誌 ID : 2012047424

学会発表・示説 2

23102007 学会発表・示説

江川昌宏1)、吉成正雄2)、加藤哲男3)、三浦直2)、山田了1)

ジルコニアおよびチタンに対する歯周病原細菌の付着特性

日本歯周病学会会誌, 53(S), 123, 2011.

第54回春季日本歯周病学会学術大会 福岡市

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント学研究部門、3) 東京歯科大学化学

医中誌 ID : 2011257364

23405003 学会発表・示説

加藤哲男1)2)、橋本健司3)、君塚隆太2)3)、斎藤英一4)、谷口正之3)、伊勢村知子5)、石原和幸6)

唾液高プロリントタンパク質由来ペプチドの内毒素に対する影響

J Oral Biosci, 53(Suppl), 200, 2011.

第53回歯科基礎医学会総会 岐阜市

1) 東京歯科大学化学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 新潟工科大学工学部、4) 新潟工科大学工学部、5) 日本歯科大学新潟短期大学部、6) 東京歯科大学微生物学

医中誌 ID : 2012047807

6. 生物学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

准教授 中村 弘明 下等動物の生体防御系に関与する細胞・組織の比較形態学的研究(A97-1380-5)

2. 成果の概要

下等動物の生体防御系に関与する細胞・組織の比較形態学的研究 (A97-1380-5)

皮膚は生物が外界と直接接する場であり、感染経路として重要であるとともに、角質化を起こさない表皮をもつ魚類においては、死細胞(たとえばアポトーシスを起こしたメラニン細胞)の除去の場となっていることが報告されているように、不要物の排出の場としての重要性も指摘されている。本研究では、皮下に人為投与された異物がどのような経過を辿るかを形態学的に追跡し、魚類の皮膚における異物排出の役割について考察した。メダカとヒラメを材料に用いた。メダカには、異物として India ink(墨汁)、SRBC(ヒツジ赤血球)、Freund's complete adjuvant(フロイント完全アジュバント)を皮下注射し、経時的に注射部位の組織を光顕標本とし、異物の動態を観察した。ヒラメには、India inkを無眼側の皮下に機械的に擦り込むように投与し、経時的に注射部位の組織を光顕および電顕標本として観察した。メダカに投与された India ink と SRBC は、投与後 1～3 日の内にマクロファージに取り込まれ、5 日～1 週間程度で体表近くに運ばれて体外に排除される過程が観察された。真皮内で異物を取り込んだマクロファージは、次第に表皮方向へと異動しながら、そのいくつかが集まって細胞塊あるいは巨細胞となる傾向を示した。ヒラメにおける電顕観察により、India ink を取り込んだマクロファージの一部は、癒合して多核化していることが明らかとなった。皮下に注射されたアジュバントの場合には、注射部位の皮膚に浮腫様の変化が現れ、表皮の崩壊と共に異物が体表から流れ出るような反応が観察された。光顕観察により、アジュバントのような流動性のある油性物質に対しては、その周囲を取り囲むような反応(包囲化)が起こり、表皮の一部の崩壊と再生を伴う過程によって体外への排出が起こるのではないかと考えられた。以上の観察から、魚類の皮膚は、異物排除の場として生体防御の一環を担う重要な場として機能していることが示唆された。

7. 体育学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授 中村 光博 バスケットボール、タイムアウトを考える(A99-1590-1)

2. 成果の概要

1) バスケットボール、タイムアウトを考える(A99-1590-1)

平成18年4月からルール改正が一部実施されタイムアウトの請求が改正された。これによる状況の変化について調査、研究を行っている。

2) 健康を求めて、関連していることを研究している。

東京歯科大学教養系研究紀要 25, 51-56, 2010

その他

1. 中村光博 <http://ir.tdc.ac.jp/irucaa/handle/10130/1414> 健康を求めて「歩くスポーツとしてのゴルフ」

8. 法人類学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授 橋本 正次 三次元画像撮影システムの開発と頭蓋骨および顔の異同識別
(A03-1600-1)(A03-1600-2)

2. 成果の概要

1) 三次元画像撮影システムの開発と頭蓋骨および顔の異同識別 (A03-1600-1) (A03-1600-2)

実際の事件や事故における鑑識作業において、三次元画像撮影システムから得られた基礎資料をもとに頭蓋骨や顔の異同識別を行い、その信頼性を高めることができたと考えている。